

## 天頂の虹

結城 文

もうすぐ五月というのに  
今朝がたは

白い花びらのように雪がながれた

旭川の針葉樹林

根方の根雪はまだ溶けない

林の切れ目から遠望する大雪山系は

白銀の輝き

ふと見上げた天頂の空は透明に潤い

太陽の周りにリングをなす

あるかなきかの虹――

見上げているうちにふっとかき消え

また現れる

なにも覚えていない旭川での幼児期

まだ若かった父母がようやく歩きはじめた私を連れ

移り住んだ第七師団官舎

とぎれとぎれの大人たちの会話と

戦災をのがれたいくひらかの写真――

雪に埋もれそうな私

母の膝にのって雛段の前にいる私

そんな手がかりだけをたよりに

訪れた自衛隊旭川駐屯地――

その奥に当時の佐官級官舎が二、三軒

今なお残っているのも驚き

思わぬ立派さで立つ白亜の偕行社は

かつて父母が生活物資を調達したところ

――ただ今改修中

たよりないというより

ほとんど記憶皆無の地に

何に曳かれて

たどりついたのでろう

また現れる天頂の虹を見ようと

いくたびもいくたびも大空を仰ぐ